MARCH 2022

鶴見大文学部ドキュメンテーション学会

NEWS LETTER

Documentation No.30

ドキュメンテーション

ノート PC 返却の日に

ドキュメンテーション学科 15 期生の卒業を祝して

15 期生のみなさん、ご卒業おめでとうございます！

2020 年初頭に顕在化したコロナウィルスの世界的流行により、みなさんは不本意にも「コロナ世代」の大学生と呼ばれることになってしまいました。大学生活後半の大切な時期にオンライン授業を余儀なくされたことは、我々教員にとっても非常に残念なことでした。

しかしながら、この間、社会のデジタル化は劇的に進展しました。それまで対面で行われてきた活動の多くがリモートに置き換わり、現代社会の機能の一部は最新のデジタル技術をもって達成・補完が可能なことが証明されました。

より重要なのは、このことによって私たちひとりひとりが、コミュニケーションのあり方についてかつてなく考えたことです。遠隔コミュニケーションの体験がもたらした様々な気付きは、少なからぬ人々にこれまでとは違う生活や仕事のあり方への模索を促しました。こうした個人レベルの変容はそれに続く大きな社会変革の予兆を示唆しています。

幸いなことに人類の叡智により、私たちはこの未知の敵に対応する方法を見出しつつあります。中世ヨーロッパでペスト大流行の後にルネサンスが開花したように、困難を克服した先には、必ずや輝きに満ちた新しい世界が皆さんの前に開けることでしょう。

ドキュメンテーション学科では全学年、全コースで情報について学んできました。コンピュータの知識と技能は、特にこの２年間みなさんの学びを支える礎となったはずです。アマビエなど古い書物に記されたいにしえの疫病退散の願いに光が当てられたのも記憶に新しいことでしょう。根拠の不確かな情報に踊らされることなく真偽を見極める力の必要性も痛感したことと思います。これら大学生活で得たすべてを、ぜひ今後の自身の生活や社会のために役立ててください。この４年間のドキュメンテーション学科での学びが、これからのみなさんを永く支えてくれることを願い、お祝いのことばといたします。

ドキュメンテーション学科　河西 由美子

2021 年度　卒業論文題目

河西由美子研究室

早坂　　翼　子ども文庫の歴史に関する研究
天宮　海里　大人向けの絵本に関する研究
岡西　花奈　Twitter を活用している図書館の広報活動に関する研究
我満　真彩　コロナ禍における図書館の児童サービスに関する研究
佐野　夏実　神奈川県内の図書館における高齢者サービスに関する研究
菅野　　遥　ブックスタートに関する研究
髙橋めぐみ　赤ちゃん絵本の内容分析に関する研究
原真　優　　コロナ禍における電子図書館サービスに関する研究

大矢一志研究室

杉山　祐麿　「BanG Dream!」におけるメディアミックスを用いたアニメコンテンツの研究
　　―バンドリーマーに向けたコンテンツ作り―
中村　　駿　バスケットボールトレーニング支援アプリの研究
平山　　駿　VirtualYouTuber のビジネスモデルの研究　―e スポーツを対象とした活動の事例研究―
平山美千穂　ロアルド・ダール『チョコレート工場の秘密』の自然言語処理による翻訳研究
和田成己人　声優とアニメ作品のデータベース開発

田辺良則研究室

岩見　　尊　ゲームソフトランキングの変動調査
上山　智史　テーブルトークロールプレイングゲームにおけるキャラクター作成支援プログラム
曽我　海斗　機械学習手法を活用した御朱印情報サイトの作成
丹野　航介　古典籍目録のデータベース化を支援するツールの作成
二反田直輝　エンターテインメントコンテンツの順位情報を表示する自動更新型アプリケーション

角田裕之研究室

阿部　萌香　新型コロナウイルス感染症対策における公共図書館サービスの比較調査と考察
岩瀬　壮吉　新型コロナウイルス感染症による図書館のツイートの変化の調査と分析
小森　　優　紙の書籍と電子書籍のメリット・デメリットを調査した結果報告と分析
　　―新型コロナウィルス感染症の拡大防止の対策が書籍の利用に与えた影響を考える
下青木夏芽　明治・昭和・平成の各時代におけるグリム童話翻訳の比較研究
髙田　薫美　現在の忍者像とその形成にあたっての事実および虚構の取捨選択についての調査と考察
奈良明日菜　鶴見大学　ドキュメンテーション学科　図書館学コースに関する研究
深澤　瑛美　公共図書館の郷土資料における視聴覚資料の内容分析と考察
古川　　萌　公共図書館における漫画の利用状況と影響
山田芽玖実　公立図書館が提供するウェブパスファインダーの現状と分析
與那城　心　地域資料の長期的な保存と提供の両立について　―デジタル・アーカイブを用いた教材の作成および研究
渡邊みのり　自然災害による公立図書館の影響と危機管理についての調査と分析および課題の考察

元木章博研究室

大学図書館における仮想空間を用いた利用者サービスの改善と提案　～Minecraft の場合～　秋元　佑介
先天性障害児の保護者に向けた早期情報提供に関する調査と提案　沖　瑠理
視覚障害者情報提供施設における Web アクセシビリティの経年的変化に関する調査　折茂　緑
教科書の図表における色覚に関する配慮の現状調査と比較　柴田　将
都道府県立図書館の Web サイトにおける交通アクセス情報に関する現状調査　菅井　珠美
コロナ禍における大学生の課外活動の制限と支援に関する実態調査　早川　輝
仮想空間を活用した鶴見大学図書館における図書館オリエンテーションの提供　～実習型オリエンテーションの場合～　前田　武士
地方自治体におけるセカンドブック実施状況の調査　三田　怜佳
都道府県立図書館 Web サイトにおける閲覧補助機能の経年的変化に関する調査　森山なつみ

加藤弓枝研究室

『古来流行御手鑑目録并代付』の研究　齋藤　優
『源平はちかづき姫』考　城田　美波
『宝暦二年二月十五日道明寺天満宮奉納詩歌』の研究　鋤柄雄太朗
葛飾応為画『女重宝記』考　高村沙也香
『屏風絵題和歌集』に関する考察　豊田　樹
須原屋市兵衛の出版活動　松原　耀一
鶴見大学所蔵『貞門・談林俳人・公家歌人他 短冊帖』の研究　向　健彰
鶴見大学所蔵『源氏物語』古筆切の研究　望月　瞳
『道明寺天満宮奉納和歌五十首』の研究　森　弘樹
上方版草双紙『和漢鼠合戦』の研究　森田　由美
『伊勢物語』の装訂に関する研究　渡邉阿里沙

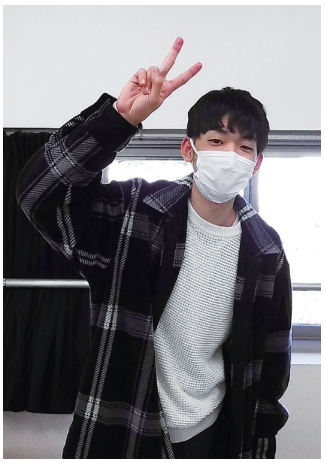
伊倉史人研究室

明治時代の桃太郎の研究　―巌谷小波「日本昔噺」を軸として―　赤澤　昇吾
日本昔噺『猿蟹合戦』の書誌的研究　荒木　駿
表紙文様に関する考察とデータベースの作成　池田　悠麗
香雪・交山挿画『奥の細道』研究　熊谷　晟
鶴見大学図書館蔵『貞門・談林俳人・公家歌人他 短冊帖』の調査及び研究　桑田　霞
「百人一首」の本文の研究　―尭孝本と尭恵本の比較を中心に―　笹間　大成
鶴見大学図書館所蔵「源氏物語」についての調査及び研究　本橋　七海

2021 年度 研究室紹介

大矢一志研究室

卒論のテーマは決まりはしたものの、選んだアニメのコンテンツの量が多く、調査やコンテンツの作成に苦労しました。特に、頭の中で考えていることを誰にでも伝わる文章にすることが一番難しい所でした。論文を書きながら人に伝わる文章の書き方を学ぶことができ、よい経験になりました。卒論を書く上でのアドバイスとして、早めにテーマを決め動くのはもちろんのこと、１０月中には一度論文を書き上げたほうが後々楽になると思います。最後に、卒論のデータは一つではなく複数のバックアップを取ることをお勧めします（提出５日前にファイルが壊れた時は絶望しました）。［杉山祐麿］



田辺良則研究室

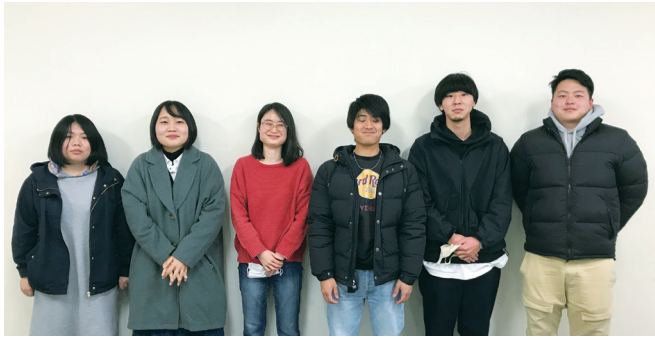
田辺研究室では、主に情報学コースでの履修内容に基づきつつも、自由な発想による研究を行っています。毎週のゼミまでに、進捗状況を 1000 文字以上の文書に纏めて提出します。それにより安定したペースで研究を進められます。ゼミでは各自の報告に対し、同じゼミの学生や先生からのフィードバックを受けることで、研究がブラッシュアップできます。コロナ禍のため、ゼミは Zoom を用いてオンラインで行われましたが、LINE も用いて、円滑なコミュニケーションができました。［二反田直輝］

河西由美子研究室

河西ゼミでは主に図書館情報学に関わる領域を研究分野としています。児童サービスや情報サービス、学校図書館に関するものなど幅広いテーマを扱うことが可能です。コロナ禍が続く今年度は、Teams によるオンライン形式で卒業論文演習を行いました。また、扱ったテーマもコロナ禍の現状を反映したものが複数ありました。演習では毎時間各自の進捗を報告しあい、情報共有をすることで自らの研究に役立てていました。演習時間外でもメールでの相談や、個人面談による指導をして頂きました。卒業論文執筆という慣れない作業に戸惑うことも多いと思いますが、それはゼミの仲間皆同じはずです。仲間同士で連絡を取り合って協力し、提出まで一年間頑張ってください！　［高橋めぐみ］

加藤弓枝研究室

感染症拡大の影響で、卒業論文演習の３分の２程度はオンラインで行われました。オンライン授業は質問がしにくい面があり、苦労も多かったのですが、自分の発表後に他のゼミ生から意見をもらえる時間があったため、一人でやっているという感覚はなく、みんなで一緒に取り組んでいる気持ちになれたのがよかったです。 わたしたちは３年生になるタイミングで新型コロナウィルスが流行し、大学生活の約半分が遠隔授業だったため、なかなか友達と会話する機会がありませんでした。しかし、卒論ゼミでは、授業を重ねるごとに学生同士の仲が深まっていきました。授業中も堅苦しい雰囲気はなく、笑い声が聞こえるほど楽しく、みんなで卒論を書くことができました。　［鋤柄雄太朗］



伊倉史人研究室

私たちのゼミでは、『源氏物語』や『百人一首』の本文系統の考察、鶴見大学図書館所蔵の俳諧短冊帖の紹介、表紙文様のデータベースの作成、『奥の細道』の本文と挿画の関係の分析、明治期の昔話の比較調査等を行いました。貴重書の調査には神経を使いましたし、多量の文様の画像収集には時間を要しました。挿画がどの場面を描写したものか読み解くのは難しく、英語に翻訳された昔話の解読にも苦労しました。今年度はオンライン中心で、わいわい議論するような場は設けられなかったけれども、その分各自が自覚を持って毎回の発表に勢力を傾けました。提出後はもう少しできたのではと悔も残りましたが、１年間の努力が報いられてスッキリとした気持ちにもなりました。［熊谷　晟］

角田裕之研究室

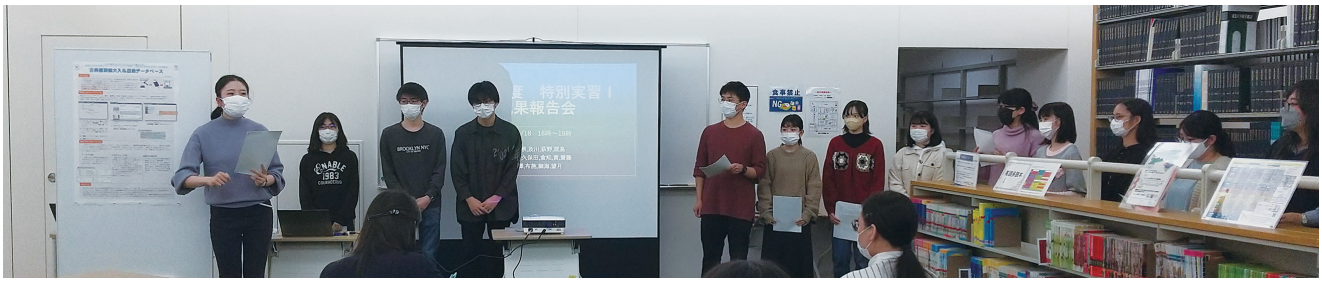
角田ゼミでは、主に図書館についてのテーマが主となり、電子書籍や漫画、地域資料などそれぞれが興味を持った内容を研究することができました。 調査方法も公立図書館や学生を対象としてメール、Fax、QR コードを用いたインタビュー調査、文献調査、インターネット調査とそれぞれの研究に沿った様々な方法がありました。今年度は週に１回 Teams を用いてゼミを行い、１週間何をしたかを発表しました。就職活動やコロナウィルスの関係で対面・オンラインと自分で決めて参加することができ、自分のペースで研究を進めることができました。また、テーマの決め方、どうやって調査をすればいいのか、どんな風に執筆をするのかなど分からないことがあったら、些細なことでも個人面談をしてもらえます。角田先生は相談をすれば優しく丁寧に応えてくださいます。自分のペースで最後まで諦めずに頑張ってください！　［山田芽玖実］

元木章博研究室

元木研究室の特徴は、「団結して取り組む」ことです。卒業論文に取り組む際、テーマや論文の構成を考えるのはもちろん自分自身ですが、その過程で先生と何度もミーティングを行ない、大学院生や OB・OG の先輩方、そしてゼミの仲間と相談しながら進められます。例えば研究室では年に２回、春と夏に合宿を行っています。残念ながらここ２年ほどは実施できませんでしたが、合宿ではゼミの仲間や先輩方と交流を深めたり、先輩方に相談したりできます。また、先輩方がゼミを訪ね、卒業論文の相談にのってくださることもあります。このように、ゼミの仲間や先輩方等のさまざまな視点からアドバイスをいただきながら卒業論文に取り組めるのが、元木研究室です。　［三田怜佳］

特別実習Ⅰを振り返って

「特別実習Ⅰ」というプロジェクト型授業では、『古典籍展観大入札会目録』をデータベース化しています。古典籍展観大入札会とは、東京古典会が毎年開催している古典籍のオークションで、毎回 2000 点ほどの名品が出されます。出品古典籍は毎年冊子にまとめられますが、カタログであるため、国立国会図書館にも過去の入札目録は揃っていません。しかし、そこには貴重な古典籍の情報が詰まっています。そこで、この授業では、任意の年の入札目録を選び、本学科の 3 コース「図書館学」「書誌学」「情報学」の授業で学んだ知識や、所属しているコースの責任感を元に、学生が自主的・組織的に出品古典籍のデータベースを作成しています。古典籍の書誌とは何か、データベースの利用者は何を求めているのか、どのようなデータベース設計が相応しいのか等、実践で必要となる知識は広く膨大です。試行錯誤を繰り返しながら、学生たちの力のみでデータベースを作成し、その成果を図書館総合展でポスター発表しました。今年度作成したデータベースの紹介動画を YouTube で公開しています。ＱＲコードからアクセスの上、ぜひご視聴ください。



調べる力、考え解決する力

情報学班　3年　久保田 憂

私たちプログラミング班は、データベースのプログラミングを担当しました。この特別実習Ⅰを履修して、技術面で分からない問題に対して試行錯誤を繰り返すことや、他班とデータベースのイメージを共有する難しさなど、大変なことがたくさんありました。ですが、これらの経験により、プログラミングスキルの向上はもとより、問題に対して調べる力、調べたことを元に考え解決する力など、たくさんのスキルを身につけることができました。また、大人数で一つのものを長期的に作成する機会はなかなかないため、社会性を身につける良い経験になりました。これまで授業で学んできたことを活かすことができ、様々な体験やスキルを得ることができ、特別実習Ⅰを履修して良かったと思います。

古典籍の入札会も見学

書誌学班　3年　芝 柚希

今回の実習で使用した入札目録には 2000 件を超える情報があり、これらを整理してデータベース化するという作業は決して簡単ではありませんでした。しかし、それぞれのコースでこれまで学んで得た知識を出し合うことで、より完成度の高いデータベースを作り上げることができたと思います。入学してからこのように大人数で何かに取り組む機会が無かったため、非常に達成感がありました。また、私たち書誌学チームは実際の古典籍展観大入札会の会場へ一般来場者として出かけました。たくさんの古典籍が出品されていましたが、一つとして同じものはなく、大変見応えがありました。データベースの作成や発表はもちろん、入札会に参加できたことも含め、貴重な経験となりました。

コースの垣根を越えて

図書館学班　3年　上原 ひなた

特別実習Ⅰでは、それぞれが担った作業の他に、全体のまとめ役を担当しました。昨年度から始まったオンライン授業の影響もあり、なかには入学してから一度も話したことのなかった人もいました。どうすれば話し合いを円滑に進められるのか、毎回授業前に考えていましたが、時には議論が停滞してしまうこともありました。しかし、そういった時には、メンバーが適切な意見を出してくれたため、先に進むことができました。この授業のようにコースの垣根を越えて、全員で 1 つの成果物を製作するような授業は、他にはありません。実習の過程で、自分が知らない知識を得ることもできました。全員で作業を協力して行ったことでデータベースを完成させることができ、良い経験になりました。

コース選択

図書館学コース　レファレンスサービスを学びたい

2年　金本 陽奈

大学に入学する前から司書を目指しており、図書館学コースに進みたいと思っていた。この２年間、司書になる為に必要な科目を履修し、図書館で行われているサービスや目録規則など、具体的な仕事内容について学んだ。もっと司書について学びたい、という気持ちが強くなった。

私は、図書館で提供されているサービスについて学んでいく中で、自分の知らなかったサービスものがたくさん存在することを知った。中でも、障害者サービスというものに興味を持った。、障害者サービスは自分が想像していたよりも、提供できる資料が少ない、積極的に活動している図書館が少ないといった課題が多いことを知った。これまで、具体的な司書像は考えていなかったが、障害者サービスに特化した司書になりたいという目標ができた。

３年生からは、児童サービス論や図書館サービス特論など、より具体的に図書館サービスについて学べる。中でも、図書館サービス特論では、障害者サービスについてより詳しく学ぶことができる。自分が障害者サービスに特化した図書館で働く時に、改善されていない課題について、どのような行動ができるのか。より現実的な改善策を見出せるのかということを意識して授業に取り組みたい。

書誌学コース　くずし字が読めるようになって

2年　水間 帆乃美

私が書誌学コースを選んだ理由は、１、２年生の時に履修した書誌学に関する授業を通じて興味を持ったからです。古典籍読解演習Ｉの授業では、初めてくずし字というものに触れ、現在使われている文字の成り立ちを学びました。そして、授業を通じてこれまで自分に無縁だったくずし字が少しでも読めるようになったことがとても嬉しかったです。また、書誌学基礎演習の授業では、実際に古典籍に触れることで当時の書物について深く学ぶことができ、現代の書物との違いやその進化を実感することができました。

１、２年生の時には情報系の授業もあり、技術的な面では自分のためになる内容も多くありましたが、将来自分がやりたいことを考えると、書誌学コースに進み、古典籍についてより深く学んでみたいと思っています。そして将来は、書誌学コースで学んだことを役立て、出版業や印刷業の仕事に就きたいと考えています。

情報学コース　プログラミングの楽しさを知る

2年　遠藤 夏加

わたしは司書になりたくてこの学科に入りました。しかし、２年生の後期に学んだネットワーク演習Ｉでプログラミングの楽しさも知りました。１３桁の ISBN の番号を入力すると書誌情報を表示するアプリや、郵便番号を入力すると住所を表示するアプリなどを作り、動作確認をスマートフォンで行いました。PC でプログラムを変更すると、すぐにスマートフォンの画面が切り替わるのです。自分が作ろうとしていたものがだんだんと出来上がっていくさまが手に取るようにわかるので、絶対に書き上げようという気持ちになります。また、プログラムを書き上げられたときには強い達成感を味わえるので、まるで高い山に登り切ったような気分になります。

ですが、いつもプログラムを書き上げられるというわけではありませんでした。授業が後半になるにつれ坂が厳しくなり、ついていくだけで精一杯の時もありました。

これからは、もっとプログラミングについて学びたいです。いつか学んだことを生かして、ニンテンドースイッチのゲームを自動で動かすプログラムを書いてみたいと思っています。今はまだ他の人が書いた簡素なプログラムを読んで、なんとなく理解ができるというレベルです。自力でプログラムを書けるようになるにはまだまだ学ばなければいけないことがたくさんあるのです。

司書の仕事には情報学とのつながりがたくさんあると思います。まだそのつながりについてよく理解しているとは言えませんが、自分だけの司書としての形を見つけたいです。

学生の声

長くて自由な時をどう使うべきか

1年　鈴木 響野

コロナ禍であったことから不安を抱いていましたが、高校とは大きく異なり、自分の学びたいことを学べることに感銘も受けました。大学生活で自分の学びたいことの探求と、４年という膨大な時間をどのように使うのかが悩みました。１年ではコンピュータや図書館などの幅広い分野の講義を通して自分が専攻したいものを見つける時間でありました。情報システム概論などの講義を受け、コンピュータの奥深さに感銘を受け２年ではコンピュータ、ネットワークといった専門的なことを学びたいと思います。大学入学前に「大学生は自由な時間がたくさんある」と聞きました。入学した頃はどのように使うのが正しいかが分からず、何もしないことがありましたが、今では、自分の将来についてを考える時間、講義内容の予習復習や、趣味といった好きなことにも時間を使うことができます。４年間の長い時間で将来を見つめ直し、損をしないようにしたいです。

自分とは異なる視点の意見に触れる

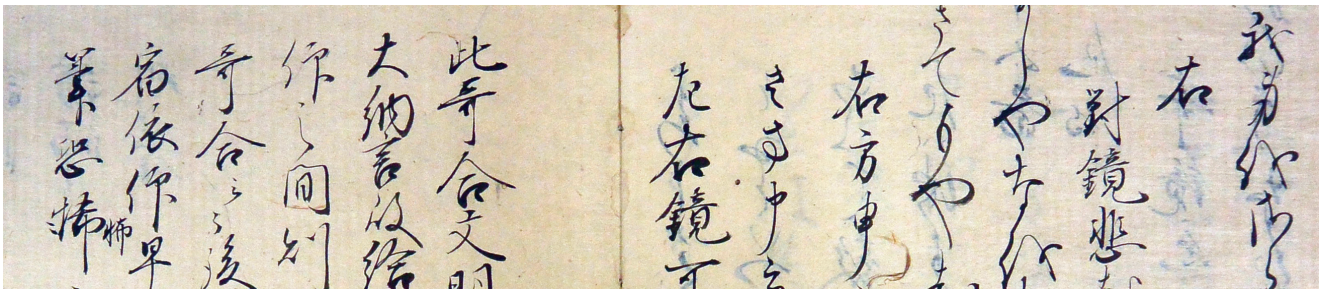
2年　大谷 美来

大学２年目は、対面授業の良さを感じられた一年でした。大学では、他学年・他学科の人も一緒に同じ授業を受けます。グループワークや発表をする授業では、まだ習っていない知識やスキルを学ぶことができます。例えば、見やすさと分かりやすさを重視した発表資料や、人を惹きつける話し方など、私が持っていない技術を直接みることができ、大変勉強になりました。また、一つのことに対して様々な視点の意見を聞く機会もたくさんあります。自分とは違う側面から考えた意見や、他学科だからこその気付きを聞くことで更に深く学べましたし、私自身の視野も広げることができました。１年次はほとんどが遠隔授業でしたが、今年は多くの対面授業があり、充実した一年を過ごすことができました。

社会人を経て大学院に進学

前期博士課程１年　山﨑 久美

４年生の時から、大学院進学か就職かで迷っていました。その後一度社会人になりましたが、再度古典籍に触れる機会があり、学びたいという意欲が高まって進学を決意しました。 大学院では、足利義尚が主催した歌合の伝本の研究を行っています。学部と違って人数が少ないため、より先生との距離が近く、授業のことも研究のことも質問しやすい環境です。また、難易度は少々上がりますが、授業内容は先生方の専門に関する内容のうち、院生の研究にも繋がることを教えていただけます。また、学部授業のＴＡも担当することがありますが、後輩に教えながら自身の専攻の復習もできるため一石二鳥です。



□「ドキュメンテーション」第３０号をお届けします。１５期生の卒業記念号です。卒業生の皆さん、おめでとうございます。
□ 感染症が拡大する中で、卒業論文や就職活動に取り組むことはたいへんだったと思います。ですが、この厳しい状況の中でも工夫をこらし、最善の道を模索した経験は、今後の人生に多いに役立つことでしょう。
□ 感染状況が収束し、いつか、どこかで、また皆さんと会える日を教員、スタッフ一同楽しみにしています。

ドキュメンテーション 第３０号　　令和４（2022）年３月１４日（月）
鶴見大学文学部ドキュメンテーション学会　〒 230-8501　横浜市鶴見区鶴見 2-1-3　☎ 045(581)1001　発行責任者：大矢一志
学科ホームページ：http://ccs.tsurumi-u.ac.jp/docu/　　学科ブログ：http://blog.tsurumi-u.ac.jp/docu/